



# みなみっ子 11号

令和8年5月11日(月)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

学校教育目標 自立 協働 創造

## 学校の教育目標にある「協働」について深掘りします！

一見、昔からある「協力」と同じように思えますが、実はこれからの予測困難な社会を生き抜くために、より進化した意味を持っています。なぜ今「協働」が重要なのか、そして学校でどのような力を育もうとしているのかを分かりやすく紐解きます。

### 1 「協力」と「協働」はどう違うのか？

これまでは「みんなで仲良く助け合う（協力）」ことがゴールでした。しかし、これからの「協働」は、その一歩先を目指します。協力：同じ目的のために、力を貸し合うこと（例：重い荷物を一緒に持つ）。協働：異なる強みを持つ人たちが、対等な立場で新しい価値や解決策を創り出すこと。今の社会は、正解が一つではありません。一人で頑張るよりも、「自分とは違う考えを持つ人」と対話し、知恵を出し合うことで、より良い答えにたどり着く。これが「協働」の本質です。

### 2 なぜ、これからの社会で「協働」が必要なのか？

子どもたちが大人になる2030年代以降、社会はますます複雑になります。多様性の時代：国籍、文化、価値観が異なる人々と働くのが当たり前になります。AIとの共存：単純な作業はAIが得意ですが、「人間同士で納得解を見つける」「新しい仕組みを考える」ことは人間にしかできません。正解のない課題：環境問題や地域課題など、一人では解決できない大きな問題に対し、チームで挑む力が不可欠です。

### 3 学校生活で育まれる「協働」の具体例

学校では、ただ「仲良くする」だけでなく、以下のようなことを大切に学習を行っています。

①自分の意見を持ち、相手に伝える：「何でもいいよ」と合わせるのではなく、自分の考え（個性）を出すことが協働のスタートです。②「違い」を面白がる：「あの人は自分と意見が違う。だから、もっと良いアイデアが出るかも！」と捉える姿勢を養います。③役割を果たし、貢献する：様々な教科学習や特別活動（行事、委員会活動、クラブ活動）などを通じて、自分の得意なことでチームにどう貢献できるかを体験します。

### 4 ご家庭でできる「協働」の種まき

「協働」の基礎は、安心できる人間関係の中にあります。ご家庭でも、ぜひ以下のことを意識してみてください。「どう思う？」と意見を聞く：夕食のメニューや週末の予定など、小さなお願いではなく「相談」をしてみてください。「家族の一員として頼りにされている」という実感が、外での協働意欲につながります。失敗を「学び」に変える：チームでうまくいかなかった時、「誰が悪いか」ではなく「次はどうすればうまくいかな？」と一緒に作戦会議を楽しんでみてください。

「協働」とは、「一人ではたどり着けない場所へ、仲間と一緒に向かう力」です。学校での学びを通じて、お子様が多様な人々と手を取り合い、自分らしく輝ける未来を築いていけるよう、温かく見守っていただければ幸いです。

## 「協力」から「協働」へ：予測困難な時代を生き抜く、新しい学びのカタチ

協力：同じ目的のために「助け合う」



重い荷物を一緒に持つように、既存の目的を達成するために力を貸し合うこと。

ゴールの変化



「仲の良さ」

単に合わせるのではなく、違いを面白がりながらより良い答えにたどり着く力を目指します。



「対話による解決」

協働：異なる強みを掛け合わせ「新しさを創る」



新しさを創る

対等な立場で対話し、一人では出せない「納得解」や新しい価値を生み出すこと。

### なぜ今、この力が必要なのか？

AIにはできない「納得解」を見つける力



単純作業はAIが担い、人間には複雑な課題に対して合意形成する役割が決まります。

2030年代以降の「多様性」への対応



国籍や価値観の異なる人々とチームで課題に挑む力が、不可欠なスキルとなります。

一人では辿り着けない場所へ向かう力



自分らしく輝ける未来

自分の個性（意見）を出し、他者と手を取り合うことで、自分らしく輝ける未来を築きます。